

「社会と顧客の利」を追求する使命の実現へ
事業の幅を広げ続けて半世紀。
合言葉は「快適環境と未来創造」。



滋賀特機株式会社
代表取締役社長 中堀 敏信氏
▶ interviewer
頭取 大道 良夫
取締役本店営業部長 十二里 和彦

滋賀特機は3つの顔を持つ。社会の活力を支える電設資材商社の顔。住まいを彩る住設・家電事業者の顔。創エネと省エネを広める環境創造企業の顔。共通するのは「すべては社会と顧客の利のため」という理念だ。

取扱商品と仕入先の豊富さで
高い競争力を保持する

大道 ●「電気設備工事に関するものは何でもそろろう」。地元放送局の番組でそう紹介された通り、滋賀特機さんの本社工庫は、おびただしい種類の電気設備関連資材でいっぱいです。

中堀 ■当社の電設資材取扱品目は、電線や電線管、変圧器や高圧開閉器、分電盤、各種照明器具など約4500アイテムを常時在庫としています。販売先は地域密着型の電気工事業者さんなど約4千社。ビルや大型施設、工場等の電気工事に必要な資材をすべてそろえて現場へお届けするのが当社の役割で、仕入先は電機メーカーや住設メーカーなど500社を数えます。

大道 ●流通過程での問屋不要の動きがあらゆる業種で進んでいます。電設資材はその影響を受けていないようですね。中堀 ■電設資材は特殊な商材でほとんど施工工事が伴います。照明器具や分電盤だけなら直接メーカーから調達できるでしょ

うが、工事に必要な資材をそろえることとそう簡単にはいきません。そこで、当社のような豊富な在庫品をそろえてトータル提案できる商社の必要性があると思います。

大道 ●大津、守山、高島など県内に12の営業所を展開される御社は、営業在庫・配送に関わる充実したネットワークと、仕入先メーカー・取扱商品の豊富さで高い競争力を保持されています。

中堀 ■電設資材は差異化を図りにくい商材ですが、当然ビジネス規模が大きくなればなるほど仕入れコストが抑えられるというスケールメリットがあります。当社では

その強みを十分発揮しています。しかし、もっと重要なのは営業スタッフの豊富な商品知識と優れた提案力。お客さまが求める商品を提供するだけでなく、さまざまな商品を組み合わせることによって高い付加価値を生み出し、お客さまが求める以上の価値ある提案ができるのです。人間の能力に負うところが多い業態だけに、徹底して商品ごとの勉強会を実施し、リーダーの責務を担う中堅社員の人材教育にも力を入れていきます。また、営業スタッフ全員にiPadを支給し、現場でのプレゼンや受発注、情報共有に大いに役立てています。

設計から施工までトータル提案
強みは専門部隊の「現場力」

大道 ●御社は今年5月に創立50周年を迎えられました。誠におめでとうございます。半世紀の歩みからは、「商いの幅を

広げ続けることで顧客や社会の利になろう」と努めてこられた企業姿勢が浮かび上がります。

中堀 ■ありがとうございます。当社は創業当初、ラジオをはじめとした家電を扱っていましたが、創業者である父の吉三が独立心旺盛だったこともあり、脱家電を決意して1964年に滋賀ナショナル特品器具やソケット等の電設資材を商い始めるようになり、その後67年に滋賀特機株式会社として社名を変更して次第に商品の幅を広げ、仕入先のメーカーも増やして現在の業容に成長させてきました。今振り返ると、父の選択は正しかったですね。近隣府県の業務提携先と一緒に新会社を設立して京都、福井、三重、岐阜と事業エリアを拡大できたのも、家電特約店のような商圏制約がなかったおかげです。仕入先とも自由に取り引きすることができました。

大道 ●御社の専門スタッフはシステムキッチンやユニットバス等の設計から施工まででトータルで提案するそうですね。

中堀 ■システムプランナーやエンジニアサポートなど専門性の高い特殊部隊がそろっています。まず、システムプランナーが施主さんの要望を聞き取り、キッチン、バスルームなどのイメージを固めます。それをエンジニアサポートが図面に落とし込み、



びわ湖環境ビジネスメッセでの「デマンドコントローラー」の展示



お得意先への日頃の感謝を込めて開催される「特機フェア」



滋賀特機株式会社 代表取締役社長

中堀 敏信氏
(なかほりとしのぶ)

1956年生まれ。85年、滋賀特機株式会社入社。家電営業部部長、総務部部長、専務取締役等を経て2012年に代表取締役社長に就任。

経営理念 快適環境と未来創造

活動方針

1. 創・蓄・省エネ技術を生かし、地球環境と調和した企業経営を行います
2. 持続可能で快適な社会づくりを目指します
3. 社員の自己実現の達成と家族の幸福を目指します

会社概要

滋賀特機株式会社

- 資本金/9,360万円
- 従業員数/298名(グループ総数)
- 事業内容/電気、電材、情報、通信、空調、住宅関連資材の総合卸商社
- 本社所在地/大津市におの浜4-1-25
- URL/http://www.shigatoki.com/

プロフィール

- 1964年 滋賀ナショナル特品販売(株)設立
- 1967年 滋賀特機(株)に社名変更
- 1975年 東洋エンジニア(株)を工事・サービス部門として設立
- 1985年 中堀電商(株)設立
- 1990年 ワコー電機(株)設立
- 1998年 (株)ほりてん設立
- 2002年 ISO9001取得
- 2004年 ISO14001取得
- 2006年 新・エネルギーシステム(株)設立



大津営業所の屋根に設置された太陽光発電システムの前で、左から十二里取締役本店営業部長、中堀敏信社長、大道頭取

設計図面ができ上がれば専門部署が施工にあたります。この施工部隊はビルのリニューアルで空調機器の入れ替え、天井の張り替えなども担当します。商社でありながらここまでやれる現場力、これこそ私たちの強みと思っています。

「電力の見える化」で無駄に気づき エネルギー分野へ再挑戦

大道 ● 地域の家電販売店がリフォーム客の相談窓口になることも多いそうですね。メーカーもリフォームに力を入れていますが、成長が期待できる事業になりそうです。

制御し、あらかじめ設定した需要電力量に近づくと自動的に空調の運転制御をします。

大道 ● なるほど。高圧受電する大規模施設の場合、使用電力量のピーク値で基本料金が決まりますから、ピークの大きな要因である空調をコントロールすれば、基本料金が安くなるわけですね。

中堀 ● これを効率的に活用すれば基本料金だけでなく電気料金も大幅に節減可能です。実際、「かんデマ」を導入された学校で年間12.8万円削減できたという好事例もあります。節電効果が大きく、設置費用も2年ほどで償却できるのが特長です。

すね。では、太陽光発電システムを軸にした環境関連事業に話を転じてみましょう。「快適環境と未来創造」。創立50周年を機に中堀社長が掲げられた新たな経営理念です。持続可能で快適な社会づくりを目指す企業像を明確にされたわけですね。中堀 ● 「電力の見える化」が注目され始めた10年ほど前、本社に簡易電力計を設置して県内各営業所の電力使用状況を一括監視できるシステムを構築してみると、これまで気づけなかった無駄が見えてきました。この気づきが「エネルギー分野で社会に貢献しよう」と考えるきっかけになったのです。

十二里 ● 太陽光発電システムは20年ほど前から取り扱っておられますね。

中堀 ● 滋賀では先駆けだったと思います。ただ、早すぎたためかあまり売れませんでしたね。2006年には太陽光発電システムを主に扱う新エネルギーシステム株式会社を設立して本腰を入れたのですが、当時はまだ省エネ・創エネ意識が今ほど高まっていなかったため、説明会や現場見学会を開くなどして懸命に拡販に努めました。

設計・施工・メンテナンスを通して 太陽光発電システムをバックアップ

大道 ● 再生可能エネルギーの固定価格買取制度スタートで需要が一変したのでは。

アコンを抑えても大丈夫ですか？

中堀 ● 冷房から送風への切り替えは一時のことですから、暑くなったとは感じません。また、個別に室外機を制御できるので、あまり使わない部屋などから抑えていきます。商業施設では店舗の空調をあまり変えずに、バックヤードを重点的に落とすことも可能です。

環境分野の次代の主役は 住宅エネルギー管理システム

大道 ● 一般家庭向けもあればうれしいですね。

中堀 ● 実は、住宅向けのエネルギー管理システム「HEMS」は次世代の重要なキーワードとして注目されています。ハウ

中堀 ● ユーザーさんの意識が劇的に変わりました。これまでの販売累計は産業用が420案件(発電総量約16メガワット)、家庭用が1820案件(同約8メガワット)ですが、産業用の三分の一は昨年1年間の販売なので、急増ぶりがお分かりいただけると思います。ちなみに10キロワット以上の発電システムが一般的に、産業用といわれますが、最近では家庭用でも10キロワット以上の発電設備を希望されるケースが増えています。10キロワット未満は自家消費した後の余剰分の買い取りですが、10キロワット以上は全量を買収してもらえます。

でもらったりなど、きめ細やかなバックアップ体制を整えていこうと考えています。大道 ● 電気料金も高くなる一方ですし、地球環境にやさしい再生可能エネルギーと電力節減は、すべての人にとって無関心ではいられない課題です。

空調を制御する「かんデマ」は ピークカットで電気料金も削減

中堀 ● 当社は太陽光発電システムの普及に努める一方、電力節減にも取り組んでいます。その代表が当社で開発したデマンドコントローラー「かんデマ」。ひとこといえば「電力のピークをカットする装置」です。オフィスや学校、商業施設、工場等に複数設置されているエアコンの室外機を



電力のピークをカットし使用量を監視、エアコン室外機を自動制御するデマンドコントローラー「かんデマ」の仕組みを聞く

スメーカーが市場投入を競うスマートハウスや国が推奨するゼロエネルギー住宅に不可欠なシステムで、多くのメーカーが手掛けており、当社でも取り扱っています。これと太陽光発電住宅がつくった余剰電力を蓄える蓄電池が、今後の環境関連事業の主役になっていくでしょう。太陽光で発電した電力を蓄電池に蓄え、HEMSで管理しながら夜間や停電時に使うという生活が当たり前になるのももうすぐです。

大道 ● 全力で「快適環境と未来創造」を実践されている企業姿勢が伝わります。この度の創立50周年記念事業として、防犯カメラ250セットを滋賀県警に寄贈されましたね。電設資材商社として発展してこられた滋賀特機さんら

い社会貢献だと思えます。これからの時代に商社が果たす役割は何だと思われませんか？

中堀 ● 当社の仕入先は大手電機メーカーや設備メーカーであり、時代に先駆けた商品を常に開発されています。その動向を敏感につかみ、社会と顧客の利になるよう組み合わせ提案するのが当社の変わらない使命だと考えています。それを持続するには適正な利益の確保も不可欠。社会の利、顧客の利、当社の利。その調和を図りながら、社会貢献を続けていきたいですね。

大道 ● 節目の年にさらなる飛躍を期待しております。本日はありがとうございました。